

音楽科 学習指導案 1年〇組教室	「たんとたたのリズムであそぼう」 日 時：令和7年6月〇日（〇）第〇校時 指導者：〇〇 〇〇 児 童：第1学年〇組
---------------------	---

1 題材の構想

題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムの特徴について、それらが生み出すよさや面白さに気付くとともに、発想を生かした表現や思いに合った表現をするために、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。 ○ リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、リズムをつくる音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ることができるようにする。 ○ いろいろなリズムで表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音遊びに取り組み、リズムや拍に親しむ。
〔指導事項との関連〕 A 表現（3）音楽づくり ア（ア）イ（ア）ウ（ア） 〔児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕（ア）リズム	
題材・教材	<p>本題材は、リズムの特徴について、それらが生み出すよさや面白さと関わらせ、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして、いろいろなリズムをつくることをねらいとしている。</p> <p>本題材で扱う音楽づくりは、「たん」「たた」「うん」を組み合わせる4拍のリズムをつくったり、自分のリズムと友達のリズムをつなげたりするものである。「たん」「たた」「うん」は、これまでの学習で手拍子で打ったり体を動かしたりするなどして感覚的に体得しており、1年生の児童にとって、主体的に自己を発揮して学びに向かうことのできる学習として適していると考えられる。</p> <p>また、本題材は、第二学年「おまつりの音楽をつくろう」や「どうぶつラップ」の題材につながると考える。</p>
児童の実態	<p>本学級の児童は、幼稚園・保育園等において、様々な音楽に合わせて足踏みをしたり、「ピヨピヨさん、なあに、こんなこと、こんなことができますか？こんなこと、こんなことができますよ。」と拍にのってポーズを決めたり真似をしたりするなど、動きや音などで表現したり演じて遊んだりする経験をしている。そのため、国語科において拍を体で感じながら音読を楽しんだり、自分で見つけた言葉を拍にのって発表したりするなど、児童の自分なりに音楽を通して表現することの喜びを味わっている様子を見ることができる。</p> <p>「ぶんぶんぶん」や「しろくまのジェンカ」の学習では、曲に合わせてリズムを手で打ったり、「たん」のリズムの中に「うん」があることのよさについてカードを見たりして学習してきた。「ぶんぶんぶん」の「たんたんたんうん・たんたんたんうん」のリズムと、「しろくまのジェンカ」の「たんうんたんうん・たんたんたんうん」の違いから、リズムの反復や変化を聴き取りとり、それらが生み出すよさや面白さを感じている。また「『ぶんぶんぶん』は『たん』の時に跳んで、『うん』の時に、休んで止まっている感じがする。」「『しろくまのジェンカ』は『たん』の時に歩いて『うん』の時にジャンプしている感じがする。」などイメージを豊かに膨らませ、「たん」と「うん」で構成されるリズムパターンの違いを捉えている。</p>

目標に向かうための手立て	<p>○ 幼児期の学びを生かした指導の工夫（常時活動、本活動中の遊びを取り入れた要素等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時活動では、児童が豊かな感性を働かせ、表現することを楽しむことを通して、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるよう、リトミックのゴーアンドストップ、わらべう（「おちゃらかほい」や「なべなべ」）など、体を動かす活動を伴う音楽遊びを取り入れる。 <p>○ 子供たちが発想を得るための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 没頭して音楽づくりに取り組むことができるよう、「たん」「たた」「うん」カードと、4拍分を枠で示したシートを用意する。「たん」と「たた」のカードのリズムを両面印刷することで、机上のカードの枚数を減らして活動を円滑にするとともに、ひっくり返すだけでそれぞれのリズムが生み出すよさや面白さの違いが実感できるようにする。 ・ 児童の意欲を発想の広がりにつなげることをねらい、児童が友達のつくったリズムを自由に聴き合うことのできる「ききあいっこコーナー」を設ける。 <p>○ 生き生きと学び合うための指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と関わり合いながら音や声が揃う面白さや喜びを感じることができるようにするために、常時活動では、ペアやグループを変えながらわらべうたやリズム遊びをする。 ・ 友達のリズムのよさや面白さを実感することができるよう、自分のリズムの紹介だけにとどまらず、友達のリズムを打って楽しむよう促す。 <p>○ ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用し、自分の考えたリズムをタブレット端末で撮影し保存しておくことで、児童が学習を振り返って達成感を感じたり、第2時で画面を見ながらリズムをつなげたりすることができるようにする。 ・ 「たん」「たた」の違いによるよさや面白さを感じられるように、正確にリズムが打ちにくい児童のために、いつでも教師が提示することができるよう、デジタル教科書を用意しておく。
--------------	---

2 教科等横断的な視点で見た、音楽科との関連について

教科	○学習内容 ・ 主な学習活動
国語科	<p>「うたに あわせて あいうえお」「あいうえおであそぼう」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢や口形、発生や発音に注意して話す。 ○ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集めた言葉の中からお気に入りの言葉を使い、発音に気を付けながら、拍にのって言葉のリズムリレーを行う。
体育科	<p>「いきものランド」（F 表現リズム遊び）</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いきものランド」になりきって踊って遊んだり、軽快なリズムに乗って踊って遊んだりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な動物になりきって、全身を使って踊る。 ・ 「タッカ」のリズムを口ずさみ、弾むイメージを膨らませながらスキップをする。

体育科	<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な動物の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える。 ・ 身近な動物の動きに合う動きを見付けたり、友達のよい動きを取り入れたりする。
-----	---


3 題材の評価規準（評価方法）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①知 リズムの特徴について、それらが生み出すよさや面白さに気付いている。</p> <p>②技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。</p>	<p>思① リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音遊びを通して音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>態① いろいろなリズムで表現する学習楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 題材の指導と評価の計画（2時間）

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態	○全体への指導・支援 ※努力を要する状況と判断されそうな児童への働きかけ
第 1 時	<p>◎ リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、リズムをつくる音遊びを通して、音楽づくりの発想を得る。</p>				
	<p>【常時活動①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつのうた ・ 今日のリクエスト ・ 「鈴張小の広場」 ・ 今月のうた「折り鶴の飛ぶ日」 <p>【常時活動②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉でリレー ・ タンプリンの音に合わせて動こう ・ まねっこ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】「たん」「たた」「うん」でリズムをつくろう。</p> </div> <p>○ 「たん」「たた」「うん」を組み合わせながら即興的に表現し、音楽づくりの発想を得る。</p>	■	■	■	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音や声が揃う面白さや喜びを感じることができるようにするために、ペアやグループを変えながら、わらべうたやリズム遊びをする。 ○ 児童の「いろいろ試してみたい」という思いを引き出すために、児童と対話しながら条件を設定したり、つくり方の例を示したりする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「たん」「たた」「うん」を自由に組み合わせ、手拍子で確かめながら、4拍分のリズムをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【設定した条件】</p> <p>◇おとでたしかめる。</p> <p>◇いろいろためす。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ つくったリズムを伝え合ったり、友達のリズムを打ったりする。 		<p>思※ リズムづくりの発想を得ることが難しい児童には、組み合わせ方を例示して、つくってみたいリズムを考えるきっかけをつくる。また、友達のリズムと一緒に打ち、参考にしよう提案する。 (第2時も継続的に見取り、必要に応じて指導する。)</p> <p>態※ リズムづくりをすぐにやめてしまう児童には、色々試しながらつくっている児童や、友達と音でリズムを紹介し合っている児童など、よい学び方をしている児童の姿を紹介する。</p>
	<p>◎ リズムをつくる音遊びを通して、リズムの特徴から生まれるよさや面白さに気づき、音楽づくりの発想を得ながら即興的に表現する。</p>		
<p>第2時</p>	<p>【常時活動①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつのうた ・ 今日のクエスト ・ 「鈴張小の広場」 ・ 今月のうた「折り鶴の飛ぶ日」 <p>【常時活動②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉でリレー ・ タンブリンの音に合わせて動こう ・ まねっこ <p><めあて> つくったリズムであそぼう。</p> <p>○ リズムの特徴から生まれるよさや面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のリズムと自分のリズムを伝えたり、交換して打ち合ったりしながら、「いいな」「面白いな」と思ったことを伝え合う。 ・ リズムの特徴から生まれるよさや面白さを全体で共有する。 	<p style="text-align: center;">知 (発言、聴取)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">思</p>	<p>○ 音や声が揃う面白さや喜びを感じることができるようになるために、ペアやグループを変えながら、わらべうたやリズム遊びをする。</p> <p>○ 「たん」「うん」「たた」の組み合わせるよさや面白さをさらに感じるために、友達とリズムを紹介し合い、新たなリズムパターンを知ったり、自分と友達のリズムをつなげたりする。</p> <p>知※ リズムの特徴から生まれるよさや面白さに気付くことができるよう、組み合わせの工夫がないリズムを打って比較する。</p>

<p>○ 音楽づくりの発想を生かし、設定した条件に基づいて即興的に表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つくったリズムを友達と即興的につなげて、リズムをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【設定した条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇おとでたしかめる。 ◇いろいろためす。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなリズムパターンを知ること。 ・ 題材を通した学びを振り返る。 	 技 (行動観察)	(発言、聴取)	<p>態※ 友達とリズムを伝え合ったり、交換して打ちあったりすることが難しい児童には、カードを指し示したり、友達と一緒に打ったりするよう声を掛ける。</p> <p>技※ つくったリズムを友達と即興的につなげて、リズムをつくるのが難しい児童には、先にリズムを選ばせておいて、組み合わせるよう助言する。</p>
--	---	---------	---

5 本時の目標

- リズムの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽遊びを通して音楽づくりの発想を得る。

6 本時の展開

学習活動	○教師の働きかけ（指示・説明・発問） 予想される児童の姿（・）	○教師の支援
1 常時活動	<p>【常時活動①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつのうた ・ 今日のリクエスト ・ 「鈴張小の広場」 ・ 今月のうた「折り鶴の飛ぶ日」 <p>【常時活動②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉でリレー ・ タンブリンの音に合わせて動こう ・ まねっこ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前半の【常時活動①】では、安心して学習に臨むことができるよう、楽しい雰囲気をつくる。 ○ 後半の【常時活動②】では、本時の活動に生かすことができるよう、リズムに関する既習事項を取り入れながらリズム遊びを行う。
2 めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちでリズムをつくりましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><めあて></p> <p>たん たた うんで りずむをつくろう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が自分事として課題意識をもち、主体的に活動することができるようにするために、児童と一緒にめあてをつくる。
3 即興的にリズムをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どうやったら、楽しいリズムができるかな。いっしょにつくってみましょう。 ・ はじめは「たん」がいいな。 ・ つぎは「たた」にしようかな。 ・ つくったら、手で打ってみたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【やくそく】</p> <p>おとで いろいろ ためして つくる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の「いろいろ試してみたい」という思いを引き出すために、児童と対話しながら条件を設定したり、つくり方の例を示したりする。 ○ 児童が没頭して音楽づくりに取り組むことができるよう、「たん」「たた」「うん」が印刷されたカードと、

	<p>○ リズムの探検隊になったつもりで、手で打ちながら、いろんなリズムをつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「たん」を「たた」にかえるとさっきとはちがうリズムができた。 ・ 「たた」をたくさん使うと、急ぐ感じがしておもしろいな。 ・ ほかにどんなリズムができるかな。 ・ いいリズムができたから聴いてほしいな。 ・ みんなはどんなリズムをつくったんだろう。 <p>○ 途中で友達に紹介したくなったり、聴いてみたくなったりしたら、「ききあっこコーナーに行ってもいいですよ。」</p> <p>○ 友達のリズムを聴いてみましょう。</p> <p>○ つくったリズムの中から、お気に入りのリズムを、みんなに紹介しましょう。どうしてこのリズムがお気に入りなのですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「たん」と「うん」ばかりにしたので、のんびりしているから。 ・ さいごだけ、「たた」にしたのでかっこいい。 <p>○ 今日つくったリズムを使って、次はどんなことをしてみたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだ、他のリズムをつくりたいな。 ・ みんなにリズムを紹介したい。 ・ つくったリズムをつなげたい。 	<p>4 拍分を棒で示したシートを用意する。</p> <p>○ 「たん」「たた」の違いから生まれるよさや面白さに気付けるよう、必要に応じて、デジタル教科書を提示する。</p> <p>思※ リズムづくりの発想を得ることが難しい児童には、組み合わせ方を例示し、考えるきっかけをつくる。また、友達のリズムと一緒に打ち、参考にしよう提案する。</p> <p>態※ リズムづくりをすぐにやめてしまう児童には、試しながらつくっている児童や、友達と音でリズムを紹介し合っている児童など、よい学び方をしている児童の姿を紹介する。</p> <p>○ 「自分のリズムを紹介したい」「友達のリズムを聴いてみたい」という姿を発想の広がりにつなげるために、児童の学習状況を見取りながら、「ききあっこコーナー」を設ける。</p> <p>○ お気に入りの理由を問い、リズムの特徴から生まれるよさや面白さに注目させる。</p> <p>○ 本時の学習を想起するとともに、次の学習への意欲をもたせる。</p>
<p>4 全体で交流する。</p>		
<p>5 次の学習への意欲をもつ。</p>		

【授業の視点】

本日の協議会では、以下の視点を中心に協議を進めたいと考えています。公開授業の中で、児童の姿や教師の手立てについて、各自ご自由に書き留めていただき、協議にご活用ください。よろしくお願いたします。

- ① 児童は、本時のねらい（リズムの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽遊びを通して音楽づくりの発想を得る。）に向けて、主体的に学ぶことができていたか。
- ② ①のための教師の手立ては、有効だったか。（教材、教具の工夫・発問・場の設定など）
- ③ 本時における常時活動は、児童が主体的に本時の活動に向かうための手立てとして、有効だったか。

	主体的に学ぶ児童の姿	その姿につながる教師の手立て